

9月末組織人数 5,120人

拡大統一行動月間でなくても
継続して声かけをしましょう。

建 労 い わ て 月 刊 号

発行所
岩手県建設労働組合連合会
教 宣 部
盛岡市本宮一丁目7番27号
電話 019-631-3280
FAX 019-635-4015
発行者 藤井泰男



3本のホームランでチームの優勝に貢献
宮古建設組合の中村勇斗さん

青年部交流会 ソフトボール大会

9チームが参加

試合と応援に熱

優勝は宮古組合チーム

9月27日、石鳥谷ふれあい運動公園で、岩手県連青年部交流会のソフトボール大会が行われました。大会には9チームが参加。昨年と同様に、3チームが同一グループ内で戦うリーグ方式で、3グループに分かれて1位と2位のうち最上位チームが決勝トーナメントに進むという試合方法

で行われ、晴天の中どのチームも試合と応援に熱が入っていました。出場チームは、遠野建設組合、花巻建築業組合A、花巻建築業組合B、盛岡建設労働組合A、盛岡建設労働組合B、宮古建設組合、八幡平建設職組合、江刺建築組合、混合（北上・西和賀・平泉・釜石）です。3つのグラウンドで3つのグループの試合がそれぞれ

各グループリーグの試合、準決勝、3位決定戦も終わりが決着。決勝は盛岡建設労働組合Aと宮古建設組合の戦いとなりました。決勝戦は沢山の観戦者が見守る中行われ、その中で宮古の選手がヒットで出塁すると、仲間のいるベンチに向かって「やきにく〜」と大会後の慰労会に向けて

チーム全員一丸となつてい姿がとても印象的でした。試合は、親子で投手と捕手のバッテリーを組み、また投打がかみ合った宮古建設組合が勝利を収めました。試合終了後、閉会式が行われ優勝した宮古建設組合、準優勝の盛岡建設労働組合A、第3位の遠野建設組合の表彰が行われました。

その後、ホームラン賞の発表が行われ、昨年よりも10本多い17本のホームランが出たことが発表されました。中でも宮古の中村勇斗さんは、3本も打ちました。最後に照井青年部長より「ケガも無く終了出来て良かったです」と総評があり、大会は終了しました。



そうめんうまく取れるかな

9月12日、大船渡市「長洞仮設住宅」で東京十建目黒支部に、渋谷、世田谷支部も参加して2回目の「復興住宅デー」が開催された。前日の夜、バス2台で現地に入り疲れも見せず、イ

ベントの準備、焼きそば、焼き鳥、かき氷、コッパトイ、子供工作、流しそうめんなどの準備が進み、開催時間前かから沢山の住民がおとずれた。

当日は、けせん建設職組合（以後けん組とする）から6名の仲間が参加して、仮設ゴミ置き場の床張りなど、住宅の多くは高齢者であったが「遠くから来て、この様な事をしてくれて頂いて感謝している」と話していた。

イベント終了後、集会場で交流会が行われ、佐藤國雄けん組委員長より、目黒支部、役員8名の方へ感謝状を贈り、御礼を申し上げた。渋谷支部の仲間から「初めて参加したが来て良かった。来年は仲間を誘って参加したい」と来年の再会を確認して、交流会が「絆」を感じたひと時であった。

流しそうめん好評、人々が群がる。そうめんが間に合わず苦笑したが、一番好評であった。

流しそうめん好評 人々が群がる

【県連会長 齋藤徳重】

惜しくも入賞逃す 全建総連第31回 全国青年技能競技大会

9月22日から3日間にわたり、長野県松本市「松本市総合体育館」で、全建総連第31回全国青年技能競技大会が行われました。

31県連・組合73名が参加。岩手県代表として、日向春樹さん（遠野）が出場しました。

惜しくも入賞はなりませんでしたが、時間内に作品を作り上げ健闘されました。大変お疲れ様でした。来年も挑戦して頂きたいです。

8月28日、県条例施工意見交換会が非公開で行われた。これは、県が契約業務に携わる働く者の労働条件の改善を主目的とした「公契約条例を早期制定する」についての請願が採択されてから2回目（今年度は1回目）の開催となる。

きぎずな

労働者側から連合岩手、いわて労連、建設労働組合、経営者側から県建設業協会、県経営者協会、県ビルメンテナンส์協会、県中小企業家同友会の代表が参加。県から提出された次第で意見交流を行った。今年度4月から先行して、県契約における競争入札の透明性並びに公正性、ダンピング防止の調査を審議する7名の「審議会委員会」を選任して、来年度から本格施行に入る予定であると説明された。またこの委員会は傍聴が出来るので、参加してみたい。資料として、岩手県連で行った賃金アンケートの結果を提示して状況を報告した。経営者側より「町場の賃金を上げていかないと建設職人が育たない。県として一定の賃金を定めるべきである」と意見が出され、職人不足に対して危機感を持っていくようだった。短時間ではあったが、条例施行に進捗ある意見交換会であった。

【県連会長 齋藤徳重】